

令和 7 年 6 月 16 日現在

機関番号：14403

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2024

課題番号：20K02607

研究課題名（和文）教師教育における言語的・文化的に多様な子どもの教育についての比較研究

研究課題名（英文）a comparative study on teacher education for linguistically and culturally diverse children

研究代表者

中山 あおい（Nakayama, Aoi）

大阪教育大学・教育学部・教授

研究者番号：00343260

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：グローバル化が進む今日、言語的・文化的に多様な子どもの教育課題が重視されている。本研究では、移民を多く受け入れてきたドイツやフィンランド等の教員養成や教員研修において、言語的・文化的に多様な子どもに向き合う上で、教員にはどのような資質や能力が求められているのか、そして、それがどのような授業や研修において育成され、どのようなカリキュラムに組み入れられているのかを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

言語的・文化的に多様な子どもの教育については、「日本語教育」に重点がおかれているが、通常学級における子どもの言語的・文化的多様性を前提にした授業作りや、そのために必要な教員の資質や能力についての研究は少ない。第二言語を指導する教員や支援員だけでなく、クラス担任や教科教員等、すべての教員が、言語的・文化的に多様な子どもに向き合うための資質・能力を育成するために、どのような教員養成や教員研修が必要なのかをヨーロッパの事例から検討した本研究は、「日本語教育」に偏りがちな日本の研究動向において意義があり、教員養成のカリキュラム開発において新たな知見をもたらすという意味でも意義がある。

研究成果の概要（英文）：In today's increasingly globalized world, educational challenges related to linguistically and culturally diverse children are gaining importance. This study examines teacher training and professional development in countries such as Germany and Finland, which have accepted significant numbers of immigrants. It explores the qualities and competencies required for teachers to effectively engage with linguistically and culturally diverse children, as well as how these skills are fostered through specific courses and training programs and integrated into curricula.

研究分野：比較教育学

キーワード：教員養成 多様性 移民 カリキュラム ドイツ フィンランド

1. 研究開始当初の背景

グローバル化の進展に伴い、日本の学校で学ぶ外国人児童生徒が増加し、2017年の「教員採用等の改善に係わる取組について(通知)」においても専門性の項目に「外国人児童生徒等に対する教育支援」が明示され、教員養成や教員研修において「外国人児童生徒」への対応が重視されるようになった。また、文部科学省によると「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査(平成30年度)」では、該当児童生徒は93,133人に達した。こうした状況下で、「新学習指導要領」の「総則」において、特別な配慮の一つに「日本語習得に困難」が挙げられている。文部科学省によれば、日本語指導が必要な児童生はこの10年で1.6倍に増加しており、そのなかには、国際結婚家庭の子ども等、日本国籍を有する者も含まれる。このように、外国籍、日本国籍に関わらず、子どもの言語的・文化的多様性が進んでおり、教員養成においても新たな対応が迫られている。教員の資質・能力の向上を目的として、文部科学省は2017～2019年にわたり「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」を公益社団法人日本語教育学会に委託した。その成果として、2019年には教員養成大学の教員向けのセミナーや現職教員の研修が東京、愛知、大阪、福岡などの各地で実施された。しかしながらモデルプログラムの内容は「日本語指導」を行う教員や支援員等に重点がおかれているため、今後は通常学級のなかで子どもの多様性に対応し、通常の教科学習や学級運営に活かしていくという観点からの研究が必要である。さらに、言語的・文化的に多様な子どもの教育は「外国人児童生徒等教育を担う教員」だけではなく、全ての教員の課題であり、「外国人児童生徒等教育を担う教員」を含めた一般教員の資質・能力の向上についての検討とそのための教員養成のカリキュラム開発が必要である。

一方、海外においては、外国人労働者の流入や移民の増加によって子どもの言語的・文化的多様性が増しているヨーロッパが注目される。なかでも北欧や中欧では、多くの移民を受け入れ、多様な子どもの教育が様々に模索されている。例えば、ドイツでは1970年代から外国人の定住化が進んでおり、移民の背景のある子どもは3割を超える。2010年現在、「第二言語としてのドイツ語(DaZ)」がすべての州の教員養成で提供され、国語(ドイツ語)専攻学生だけでなく、教科にかかわらずすべての教員養成の学生の必修になっている州もある。このように、ドイツではドイツ語の教員だけでなく、クラス担任を含めたすべての教員が関わる教育課題として認識されている点で参考になる。そして「第二言語としてのドイツ語」だけでなく、多様性、移民、統合、インクルージョン等をキーワードとして、言語的・文化的に多様な子どもの教育を扱う教員養成や教員研修も行われている。同様にフィンランドでは、移民の子どもを多く受け入れながら、PISA等の国際的な学力調査で高い成果を出しており、移民の子どもの第二言語習得において、生活言語だけではなく、学習言語の習得に成功している。このようにヨーロッパで行われている子どもの多様性に対応したプロジェクトや教員養成のカリキュラムは、子どもの言語的・文化的多様性への対応が求められる日本の教員養成でも参考にすべきことは多い。また、日本とは異なり、インクルージョンや学力向上政策など、様々な専門分野からの学際的なアプローチが試みられている点も参考になる。

2. 研究の目的

そこで本研究においては、日本に比べ言語的・文化的に多様な子どもが多く就学しているドイツやフィンランド等の教員養成や教員研修において、言語的・文化的に多様な子どもに向き合う上で、教員にはどのような資質や能力が求められているのか、そして、それがどのような授業や研修において育成され、どのようなカリキュラムのなかで展開しているのかを明らかにするとともに、日本の教員養成におけるカリキュラム開発への応用可能性を探ることを目的とする。

3. 研究の方法

本研究では、文献調査と海外調査を実施した。まず、移民を含めた子どもの多様性に対応した教育や教員養成に関する文献・資料の収集と分析を行った。海外調査は、最初の2年間はコロナ感染症の拡大により実施できなかったが、令和4年度より海外での訪問調査を実施した。訪問調査では、主にドイツのビーレフェルト大学やフィンランドのオーボアカデミー大学において、多様な子どもの教育に関して、どのような教員養成や教員研修が行われているのか、教員養成・研修機関における教科・プログラムの教材や資料を収集するとともに、授業担当者やカリキュラム担当者にインタビュー調査を実施し、子どもの多様性に関連した講義や研修の参与観察を行った。

4. 研究成果

4-1. ドイツにおける多様性を顧慮した教師教育

各州の教育権限が強いドイツでは、子どもの多様性に関する方針として、常設文部大臣会議

(KMK)が様々な勧告を出している。教員養成に関しては、近年では2015年に常設文部大臣会議とドイツ学長会議が共同で勧告した「多様性のある学校のための教師教育 (Lehrerbildung für eine Schule der Vielfalt)」が注目される。また、2004年に常設文部大臣会議が公表した「教師教育スタンダード：教育科学」(2022年改訂)には、教育科学のカリキュラムにおける「重点内容」の一つとして、「差異化、統合と支援 (Differenzierung, Integration und Förderung) を挙げ、「多様性 (Heterogenität und Vielfalt)」は「学校と授業の前提」であるとしている。さらに、教員に求められる10のコンピテンシーのなかの5つ目には、「コンピテンシー5：教員は多様な価値や規範、多様性 (Diversität) を承認し尊重する態度を伝え、児童生徒が自分で判断し行動できるように支援する」とあり、教員養成課程を卒業した学生は「多様性の承認が学習プロセスの成功にとっていかに重要かを知っている」必要があるとの記述がある。これらの方針から、ドイツでは教師教育において子どもの「多様性」を重視していることがわかる。

このような教育政策の下、実際の教員養成のカリキュラムにおいて「多様性」はどのように扱われているのか、ビーレフェルト大学のカリキュラム分析を行った。

(1)教育学部のカリキュラム

ノルトライン＝ヴェストファーレン州にあるビーレフェルト大学の教員養成では、学部3年間で180ECTSを取得する必要がある。中等教育段階の教員養成では2教科それぞれにおいて60ECTS、教育科学において60ECTS取得する。国家試験を受けるためにはさらに修士課程(120ECTS)を修了する必要がある。

学部の教育科学60ECTSのうち50ECTSは必修で、導入モジュール(10ECTS)、差異と多様性 (Differenz und Heterogenität: 10ECTS)、専門的基礎モジュール(10ECTS)、学習と発達 (10ECTS)、教育と授業(5ECTS)、職業分野に関連した実習(5ECTS)からなる。その他に2つの選択モジュールがある。

1年生向けの必修の導入モジュール(10ECTS)は、講義(2ECTS)とゼミナール(3ECTS)、チュートリアル(1ECTS)と観察実習(3ECTS)にモジュール試験(1単位)からなる。必修の導入モジュールの講義内容(2023/2024)は以下の通りである。

1	トピックへの導入
第一部 基本事項	
2	基本 I : Erziehung und Bildung (教育と教養)
3	基本 II : 社会化
4	基本 III : 教育と学習の理論と実践 : ディダクティクス
5	教育科学における科学理論と研究方法
第二部 : 応用分野	
6	実験学校 (Laborschule) の自己紹介
7	すべての子どもたちのための学校 : 昨日と今日のインクルージョン
8	異文化間教育
9	助言指導
10	メディア教育
11	ソーシャルワーク
第三部	
12	専門化と学校開発
13	教師の行動、学級経営、社会的統合
14	ディダクティクスと授業デザイン、まとめ

子どもの多様性については、7回目の講義「すべての子どもたちのための学校：昨日と今日のインクルージョン」と8回目の講義「異文化間教育」で扱われる。

また、差異と多様性 (Differenz und Heterogenität) 10ECTS においても子どもの多様性について扱われている。このモジュールは、「多様で差異化した生活世界 (Heterogene und differenzbedingte Lebenswelt 3ECTS)」、「教育機関における多様性と差異への対応 (Umgang mit Heterogenität und Differenz in Bildungsinstitutionen 3ECTS)」、「モジュールに関する専門化 (Modulbezogene Vertiefung 4ECTS)」で構成される。モジュールのシラバス (2022/2023) には以下のような概要がある。

さまざまな生活状況の複数性 (Pluralität) を、理論と経験論の両面から扱う。これは、貧困や社会的不利、移民、健康など、歴史的および現在の問題領域に基づいて行われる。子どもや若者の生活世界を様々な側面から検証し、メディアの世界も分析

する。子どもや若者の生活世界に関する様々な教育関連理論が取り上げられ、社会的文脈の中で批判的に議論される。

ここから、子どもの多様性は、「貧困や社会的不利、移民、健康」の面から扱われていることがわかる。

このモジュールのカリキュラム担当者 Dr. Paulo Pinheiro に、モジュールの背景についてインタビューを実施した(2023.06.20)。同氏によると多様な子どもの教育課題が注目されるようになった背景の一つとして、OECD の学習到達度調査 PISA の影響があった。ドイツでは PISA の影響で移民の子どもの教育課題が浮き彫りになり、教育政策や教育支援に反映していることもあり(中山 2013)、教員養成課程のカリキュラムにおいても扱われるようになったと考えられる。このことは、上述した「教師教育のスタンダード」にも表れている。

(2) 移民や難民に焦点をあてた取り組み

このように、ビーレフェルト大学では、「貧困や社会的不利、移民、健康」などの面から不利な立場にある多様な子どもが教員養成のモジュールにおいて扱われている。ここではそのなかでも、移民や難民に焦点を当てた取り組みについて述べる。

教育実習における「DiversiTeach」

上述した導入モジュールには、5 週間の実習 (Orientierende Praxisstudie mit Eignungsreflexion : 5ECTS) が含まれている。実習に行く学生は、いくつかのグループに分かれて事前、事後のゼミナールに所属する。そのなかにも、移民の背景のある授業担当者が移民の背景のある学生、もしくは移民の教育課題に興味のある学生を対象にした「DiversiTeach」というゼミナールを行っている。そのゼミナールの担当者によると、移民の背景のある学生が、自らの学校体験をもとに、実習先での経験を分かち合う場にもなっているということである。

海外における教育実習

ビーレフェルト大学の教員養成では 1 年時の導入モジュールに含まれる実習の他に、3 年時の教育実習と修士課程での 1 学期間にわたる教育実習がある。3 年時と修士課程で実施する教育実習は、海外で行うこともでき、そのための事前事後の 6 回のゼミナールにおいて「異文化間能力」が重視されている。ゼミで行われる「異文化間能力の実践」の授業では、文献¹をもとにディスカッションをしたり、自分が行く国とドイツの教育制度の比較を発表したりする授業があった。興味深いのは、海外の教育実習で得られる異文化間能力が、国内の多様な子どもを扱うときに有効であると、ゼミナールの担当者が考えていることである。

第二言語としてのドイツ語の必修化

ノルトライン＝ヴェストファーレン州では教員養成の修士課程では第二言語としてのドイツ語 (6 ECTS) が必修になっている。ビーレフェルト大学の教員養成の修士課程では教科に関して 40～50 ECTS、教育科学に関して 24～34 ECTS、教育実習 25 ECTS、修士論文 15 ECTS、第二言語としてのドイツ語 (DaZ) が 6 ECTS となっている。つまり学校種や教科に関わらず、すべての教員となる学生が第二言語としてのドイツ語を学ぶことになる。修士の学生は、第二言語としてのドイツ語 3 ECTS を履修した後に、教科学習における第二言語としてのドイツ語 3 ECTS を履修することになっている。このことから、移民を背景にした児童生徒の生活言語だけではなく、教科学習の際に必要な学習言語についても、すべての教員が知識を持ち、授業に活かせるように期待されていることがわかる。

Lehrkräfte Plus (教員プラス)プログラム

ノルトライン＝ヴェストファーレン州では、教員経験のある難民を教員として学校で受け入れるプログラム (NRW 州の 5 つの大学で実施) を実施している。ビーレフェルト大学で実施されている 1 年間の教員研修は、ドイツ語のコース (C1)、Pädagogisch-Interkulturelle Qualifizierung (教授学的・異文化間的資質能力) 教育実習、教科教授学のゼミの 4 つのパートからなる。「教授学的・異文化間的資質能力」という授業では、「良い授業とは何か」をテーマに、Hilbert Meyer の良い授業の 10 の特徴についてディスカッションが行われていた。ディスカッションを通して、参加者それぞれの国の教育観の違いや類似点が浮かび上がり、異文化間的な要素が含まれる授業となっていた。

4-2 フィンランドにおける多様性を顧慮した教員養成

フィンランドで教員になるためには修士号が必要であり、オーボアカデミー大学の学部の教員養成課程 (Class Teacher) 180 単位の内訳は、学部 1 年生用の「教育の基礎、研修」25 ECTS、

2、3年生用の「教育の中級(Intermediate Studies in Education)、研修」40ECTS、「一般教育学(General Studies)」15ECTS、「教科の教授法」60ECTS、「言語とコミュニケーション」15ECTS、選択科目 25ECTS からなっている。

子どもの多様性については、「教育の基礎、研修」のなかにある必修科目「言語的・文化的多様性に応じた教育(Linguistically and culturally responsive pedagogy 5 ECTS)」で扱われている。このコースのシラバス(2024/2025)には、以下のように書かれている。

このコースは、学生が多様性に関する教育のさまざまなテーマや課題について学び、共有し、省察し、議論することを促すことを目的とする。また、文化的・言語的に多様な教室で実践的な教育知識とスキルを習得することを目指す。

- ・ 多様性に関する教育の重要な概念やさまざまなアプローチについて理解を深める。
- ・ 学校文化や教育モデルにおいて、権力、特権、支配、ステレオタイプがどのように影響し、学力格差につながるかを分析的・体系的に考察するスキルを養う。
- ・ 教育に役立つ情報を効果的に収集・評価する能力を向上させ、文化的に包括的な教育を支援する。
- ・ 教室内の多様性に関連する課題や機会を解決するスキルを身につけ、包括的で支援的な学習環境を作る。
- ・ 異なる文化的・言語的背景を持つ生徒、同僚、保護者と効果的に関わるためのコミュニケーション能力を高める。

このコースは、講義(10時間)、セミナー(8時間)、プロジェクト作業(25時間)、個別学習(92時間)で構成されている。講義とセミナーには、文化の多様性の側面からの3つの講義と2つのセミナーを受け持つ教員と、言語の側面からの2つの講義と2つのセミナーを受け持つ教員の2人の担当者がいる。前者の講義やセミナーでは、児童生徒の言語的・文化的多様性を授業に活かすことの意義や課題について受講生は基本的な知識を学ぶとともに、ディスカッションやグループワークを通して具体的に考察する力が求められていた。

また、修士課程は、実習を含む「教育の上級(Advanced Studies in Education)、研修」30ECTS、修士論文含む「科学的専門化」45ECTS、選択科目 45ECTS で構成されている。子どもの多様性については選択科目の「多文化主義の基礎」等がある。さらに修士課程で興味深いのは、留学生を対象とした英語による修士プログラム(Master's Degree Programme in Teaching and Learning)があり、卒業生はその他の条件(60ECTSの専門科目の履修やフィンランド語等の語学力等)をクリアすれば、フィンランドの初等教育や中等教育の教員になる道が開かれている。

以上のように、オーボアカデミー大学では、子どもの多様性に考慮したコースが学部の必修になっており、修士においても選択科目のなかで理解を深めることができる。2016年に施行された2014年の学習指導要領には、すべての多様性に対して公正で開かれた姿勢を持ち、倫理的かつ敬意を持った児童生徒を育成することを目指すことが政策として位置づけられており(Zilliacus et.al 2017)、教員養成にも反映していると考えられる。

4-3.まとめ

子どもの多様性が教員養成にどのように扱われているのか、ドイツやフィンランドにおいて資料分析と訪問調査を行った。ドイツではPISA調査の影響もあり、移民や貧困等の不利な条件の子どもの教育課題が注目され、教師教育スタンダードにも反映され、教員養成においても多様な子どもの教育課題が必修科目において扱われていた。また、ノルトライン＝ヴェストファーレン州では第二言語としてのドイツ語が修士課程において必修になっており、ドイツ語支援の教員だけでなく、すべての教員が移民や難民の子どもの言語教育についての知識をもち、授業を行うことが教員の資質として求められていることがわかる。フィンランドにおいても、学習指導要領に子どもの多様性を重視した教育方針が謳われており、教員養成では多様な子どもの教育課題を扱うコースが必修として位置づけられている。さらに、訪問調査したドイツやフィンランドの大学では、難民や留学生等に教員になる道が開かれている点が興味深い。このように多様性に開かれた教員養成は、外国にルーツのある子どもが増加している日本の教員養成の今後を考える上でも示唆深いと思われる。

注

1 Kalpaka, A. (2005) Pädagogische Professionalität in der Kulturlisierungsfall -über den Umgang mit „Kultur“ in Verhältnissen von Differenz und Dominanz

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 中山あおい
2. 発表標題 多文化に開かれた教師教育 ドイツの教員養成に焦点を当てて
3. 学会等名 日本教師教育学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中山あおい
2. 発表標題 欧州の多様性に開かれた教員養成 ドイツとスイスに着目して
3. 学会等名 日本教師教育学会第31 回研究大会（於：筑波大 学）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中山あおい
2. 発表標題 多文化に開かれた教員養成：ピーレフェルト大学の訪問調査から
3. 学会等名 第43 回ドイツ教授学研究会（招待講演）
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------